円山動物園　ワークブック　先生用資料

対象　小学校高学年

円山動物園環境教育教材

教科内でできる環境教育教材

チンパンジー編

1.ねらい

チンパンジーの抱えている問題を「身近な問題」と捉え、自分たちの生活にどのような関係があるのかを考える。また、児童たちが普段行っている環境のための行動が、動物たちにどういう繋がりがあるかを理解し行動できる。

2.学習のながれ

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
|  | 主な学習活動 | ねらい |
| **①事前学習** | 動物園に行く前にチンパンジーの種としての特徴を自分たちで調べまとめる。 | 動物に興味を持ち、動物園に行くのが**楽しみ**になる。 |
| **②動物園学習** | 動物園で調査ノートを使い、楽しみながら動物を個としてよく観察する。 | 楽しみながら、動物を個体として観察し、**身近に感じる**。 |
| **③事後学習** | ①②又はこれまでの学習をもとに、動物の紹介をすると共に、動物や人間が生きていくうえで必要なものを発表し比べる。 | 動物の生活環境と自分たちの生活が**つながっている**ことを認識する。（身近な問題として考える） |

3.ワークブックの取扱い

**１**

命の大切さがわかる

個体を観察する体験を通して、動物に対する驚きや感動が生まれ、命の大切さを理解することができます。

**２**

人と動物と環境の絆を認識―環境に配慮した行動の必要性が理解できる

自分たちの調査、観察、紹介から、種ではなく１つの命ある個体アッキーに親近感を持つことができます。また、チンパンジーの生息地の環境問題を、自分とつながりのある身近な物として感じることができます。普段行っている、また、良く耳にする環境に配慮した行動が、何のために行っていることなのかを理解することは、将来的に子どもたちが社会の中でその行動を持続させるために必要なことです。

**３**

自分の意見を持ち他人に伝えられる

　児童用資料の質問のほとんどが「間違った答え」はなく、観察した個人の感じ方によって違いが出るようにしてあります。これは動物を身近に感じさせると言う目的もありますが、自分の体験（観察）から出た言葉を他人に伝え、それについて話し合うためでもあります。自分なりの考えを伝える、人の考えを聞くということを動物に仲介してもらいながらスムーズに行えます。

**チンパンジー参考資料**

**▼分布**

セネガルからコンゴ民主共和国、ウガンダ、ルワンダ、タンザニアに分布し、生息環境は多様でサバンナや雑木林等のほか、標高2,700m程の高地の森林に生息している。

**▼特徴**

ヒガシチンパンジー、チュウオウチンパンジー、ナイジェリアチンパンジー、ニシチンパンジーの4亜種がいる。

性皮はピンク色で、発情した雌は大きく膨らむ。昼行性で樹上および地上で生活しており、地上では前肢の指関節外側を接地して四足歩行（ナックルウォーク）する。夜間になると樹上で寝床を作って休む。聴覚・視覚に優れ、色覚もある。蟻塚に棒を差込んでシロアリを捕食する、石や倒木を使って堅い果実の殻を割る、木の葉を使って樹洞に溜まった水を飲む、木の葉を噛みちぎる音を使って求愛する等様々な用途で道具を使う。これらの道具および行動には地域変異があり、文化的行動と考えられている。複数の雄、雌からなる20～100頭程の群れを形成して生活するが、普段は主に母子関係や雄同士の同盟を元に構成される小さい集団に分かれて行動する。雄、雌ともに複数の異性と交尾する。群れの個体間には順位差があり、とくに雄では順位を巡って争いが起こる。妊娠期間は約230日で、一度に1子を産む。子どもは生後2～3日頃から独力で母親の腹にしがみつくようになり、約4か月で四足歩行のヨチヨチ歩き、5～7か月後には母親の背中に上るようになり、7～8か月から果物を食べ始め、鉄棒にぶら下がったり、年上の子どもらと同等に遊びをしたりするようになる。雄は生まれた群れに留まる傾向が強いが、性成熟した雌は生まれた群れを離れて別の群れに移籍することが多い。雌が出自群を出ることによって近親交配の回避をしていると考えられている。チンパンジーは人間に近いため動物実験によく用いられ、ポリオやA型肝炎、B型肝炎のワクチン開発等に利用された。20世紀の終わりごろから動物実験を廃止する動きが起こり、21世紀になると動物実験用のチンパンジーの飼育頭数は徐々に減っていった。動物実験から引退したチンパンジーは野生復帰が難しいため、人為的な保護区で余生を送っている。

**▼食性**

雑食で、主に果実を食べるほか、種子、花、葉、樹皮、蜂蜜、昆虫、イノシシ類、サル類、リス類等の小型から中型哺乳類等、200～300種類の食べ物を食べている。集団で協力して狩猟することもある。母子間では食物分配がよく見られる。

**▼寿命**

野生 約20年／飼育下 約40～50年

**★減少の理由**

森林伐採や開発による生息地の破壊、食糧やペットにするための密猟、内戦による混乱等により生息数が減少。エボラ出血熱、急性灰白髄炎や呼吸器系の疾患等によっても生息数が減少している。生息地ではチンパンジーの保護も行われ、人為的な保護区（保護施設）が作られている。